大 麦 管 理 情 報 （第１号）

令和８年11月２日
農業技術課　広域普及指導センター

１　気象経過

（１）気温（図１）

・９月は、中旬が23.4℃（平年差＋0.5℃）と平年並、下旬が22.0℃（同＋1.3℃）と高かった。
・10月は、上旬が19.2℃（同＋0.1℃）と平年並、中旬が19.6℃（同＋2.5℃）とかなり高く、下旬が17.1℃（同＋2.1℃）とかなり高かった。

（２）降水量（図２）

・９月は、中旬が48.0mm（平年比61%）と少なく、下旬が47.5mm（同71%）と平年並であった。
・10月は、上旬が13.0mm（同24%）とかなり少なく、中旬が83.0mm（同146%）と多く、下旬が118.5mm（同195%）とかなり多かった。

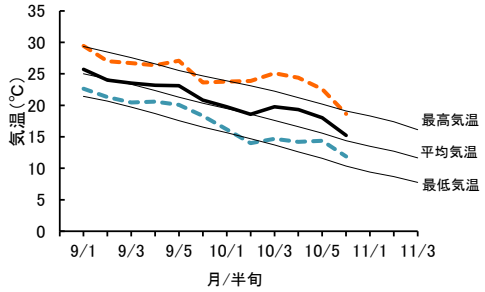


図１　気温の推移（富山地方気象台）

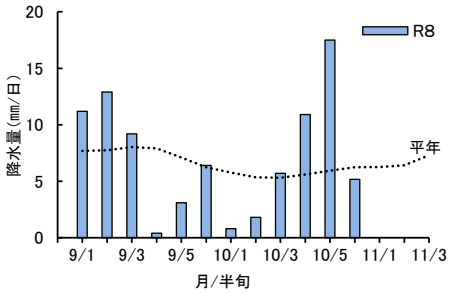


図２　降水量の推移（富山地方気象台）

２　生育概況（生育観測ほ等データ）

・播種日は、10月６日で平年並。苗立数は174本/㎡で平年並となった。
・平年に比べ、草丈は並（平年比100%）、茎数はやや少なく（同比93%）、葉齢（平年差＋0.1）及び葉色（平年差－0.1）は並となっている。

表　大麦の生育状況（11月２日）

年産	播種日（月/日）	苗立数（本/㎡）	草丈（cm）	茎数（本/株）	茎数（本/㎡）	葉齢（葉）	葉色（SPAD）
R9	10/6	174	21.5	1.7	291	3.6	38.0
R8	10/6	148	20.1	1.7	264	3.5	36.1
平年	10/6	173	21.6	1.8	314	3.5	38.1
平年比・差	0	100	100	94	93	0.1	−0.1

注１）調査ほ場数10、播種様式は全てドリル播き
注２）平年：H29～R８年産の平均

３　当面の技術対策

（１）排水対策の徹底

・水が停滞しているほ場がみられることから、根張りを良くし（図３）、越冬前の目標茎数600～800本/㎡を確保するため、早急に排水対策を実施する。

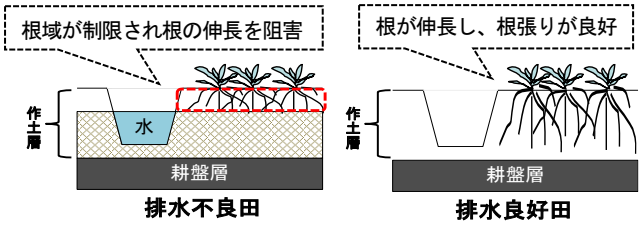


図３　停滞水が根の伸長に及ぼす影響のイメージ

・ほ場ごとに、排水溝の崩れや排水口への連結、排水口の掘下げ状況等を点検し、随時手直しを行い、排水に努める。

（２）分施体系の年内追肥による茎数の確保

・基肥窒素は、播種１か月後には大麦の吸収や溶脱により土壌中の残存量が少なくなるため、播種１か月後頃に、窒素成分で４kg/10aを目安に追肥する。
・追肥に尿素を使用する場合は、散布ムラに注意し、固結しやすいことから開封したら使い切る。